

たぐすい

TAKUSUI
No. 666

4

April, 2012

発行 財兵庫県水産振興基金

兵庫の漁業人のための情報誌



明石公園の桜

NEWS 第17回 全国青年・女性漁業者交流大会

～JF神戸市女性部が水産庁長官賞を受賞～

第15回「山田記念賞」表彰式開催 ～3名の方が受賞～

淡路島ため池・里海交流保全に関する意見交換会

～漁業者と農業者が意見を交わす～

Report めざせ“豊かな海”を!!

～自民党水産基本政策小委で山田漁連会長が強く要請～

～明日の漁業へ向かって～

第17回 全国青年・女性漁業者交流大会開催

JF兵庫漁連

平成24年3月1日(木)～2日(金)にかけて「第17回全国青年・女性漁業者交流大会」が、東京・千代田区で開催されました。この大会は、全国の青年・女性漁業者が、日頃の研究・実践活動の成果を発表するとともに、参加者間の交流により知識や情報を共有・進化させて水産業・漁村の活性化目的とし、毎年開催されています。

本県からは由良町中央漁協4Hクラブ 山本 剛部長と、神戸市漁協女性部 井上 二三枝部長が活動実績発表を行い、神戸市漁協女性部は「水産庁長官賞」を、また、由良町中央漁協4Hクラブは「全国漁業協同組合連合会会長賞」を受賞しました。

兵庫県青年部代表として山本部長は、「アカガイ養殖に希望をかける～垂下式アカガイ養殖の取り組み～」と題し発表を行いました。由良港で



山本部長の発表

実施している垂下式アカガイ養殖の現状と課題についての発表に、会場からは、養殖手法や、次の目標としたトリガイ養殖について質問があり、他県参加者と活発な意見交換が行われました。

また、兵庫県女性部代表 井上部長の「魚食普及活動の成長戦略」では、県内での魚食普及活動について発表を行いました。長年行われている取り組み内容と、近年実施している生活改善グループ「いずみ会」に対する魚料理教室の内容が高く評価され、「水産庁長官賞」を受賞されました。山本部長、井上部長、受賞おめでとうございます! (文：冨永)



受賞後の記念撮影。皆様、お疲れ様でした。

田沼 政男氏が漁協運動功労者表彰を受章されました!

◎ 2012年度漁協運動功労者表彰受章

JF林崎 代表理事組合長 田沼 政男 氏



田沼 政男 氏

JF全漁連は、3月7日(水)に2012年度・漁協運動功労者31人を決定し、発表しました。

本県からは、JF林崎 代表理事組合長 田沼 政男氏が、的確な判断と卓越した行動力で組合の経営基盤強化に貢献した功績を認められ、受章されました。

心よりお慶び申し上げますとともに、今後ますますのご健勝とご活躍を祈念いたします。

但馬地区ズワイガニ漁終了

JF兵庫漁連

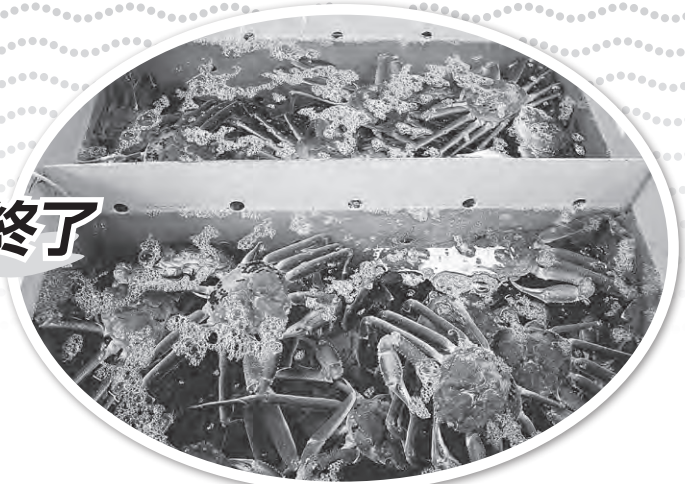
但馬地区の冬の主幹漁業であるズワイガニ漁が3月20日(火)で漁期を終え、最終セリが22日(木)行わ



れました。

今漁期の総漁獲量は1,402トン(前年比99%)で前年度漁獲量をやや下回りました。オスガニ(松葉ガニ)・メスガニ(セコガニ)・ミズガニ(若松葉ガニ)の漁獲量はそれぞれ495トン(前年比104.6%)・598トン(前年比95%)・309トン(前年比98.5%)でした。

総漁獲金額については、オスガニが漁獲量で前年度を上回りましたが、単価の高い大型が少なかったことが影響し約31億8千万(前年比約98%)となりました。



JF浜坂町におけるホタルイカの取組み ～「ほたるいか祭り」開催と「浜ほたる」出荷～

JF兵庫漁連但馬支所

日本海に春を告げるホタルイカ漁。全国トップの水揚げ量を誇るJF浜坂町の浜坂漁港にて、4月1日(日)「第14回浜坂みなと ほたるいか祭り」が開催され大勢の来場者で賑わいました。(実行委員会発表 約2万人)

会場では、ホタルイカの軍艦巻きや炊き込みご飯、しゃぶしゃぶなど様々な料理が提供され、食券販売ブースには長い行列が出来ました。

JF浜坂町では、ポイルが主体であったホタルイカを消費者に生で提供し、調理方法も多いホタルイカの魅力を広く消費者に知ってもらうため、3年前から「浜ほたる」と名付けられた商品を、イカナゴの生売りのような鮮度感で流通させる取り組みを始め、今年も神戸地区のコー

プ等を中心に実演販売を行っています。

春を告げる風物詩として、瀬戸内海のイカナゴに対して、但馬のホタルイカという消費者の認知を得られるよう、JF浜坂町の「浜ほたる」の取り組みはこれからも続いていきます。



第15回「山田記念賞」 表彰式・祝賀会 開催

～本県水産業の発展に貢献された3名が受賞～



井戸敏三 理事長の挨拶

「山田記念賞」は、永年にわたり大きな夢と希望を抱いて本県水産業の発展に尽くされた故山田岸松氏を偲び、その功績を記念するため平成3年に創設されたもので、水産業の経営、技術に優れ、多年にわたり本県水産業の振興に貢献し、その功績が著名な方々に贈られる賞です。

本年度の受賞者は、岩本 健藏様 (JF相生)、河野 秀二郎様 (JF浅野浦)、竹中 和久様 (JF但馬) の3名で、表彰式および祝賀会を、3月8日(木)、県・漁協等の関係者ら約70名の参加のもと、神戸ポートピアホテルにて開催しました。



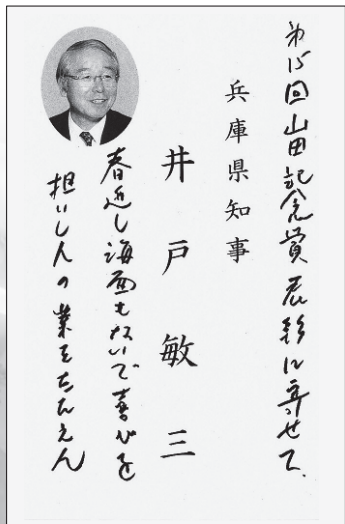
(財) 兵庫県水産振興基金

表彰式では、当基金 井戸 敏三理事長 (兵庫県知事) から受賞者お一人ずつに「天与」と命名された「男女漁業者立像」レリーフを手渡されました。井戸理事長は「受賞された皆様は、それぞれの地域、分野でさらにご活躍されることを期待します。」との挨拶に続いて、「春近し海面もないで喜びを 担いし人の業を讃えん」と歌を詠み贈られました。その後、系統団体代表としてJF兵庫漁連 山田 隆義会長が来賓祝辞を述べられた後、受賞者を代表して竹中様から謝辞があり、閉式しました。

式典終了後には、大輪田塾第7期生の紹介があり、塾生の皆さんはそれぞれ今後の抱負など決意表明を行い、続いて催された祝賀会では、参会者一同、受賞者の栄誉をお祝いし、終始華やかな雰囲気幕を閉じました。



山田記念賞の贈呈



即興で詠まれた井戸理事長の歌
名刺に書いて寄られました



【山田記念賞受賞者】(前列左から)
岩本 健藏さん、河野 秀二郎さん、井戸 敏三理事長、山田 隆義会長、竹中 和久さん

効果的な「かいぼり」を目指して!

～淡路市内で漁業者、農業者が意見交換～

(財)兵庫県水産振興基金

兵庫県内のため池は約43,000箇所(全国1位)で、その半分以上の約23,000箇所が淡路島にあって、田主と呼ばれる組織によって管理されています。しかし近年は、高齢化の影響や農家の廃業等で管理放棄されるケースが多くなりました。この状態が続くと台風・大雨の際には決壊などの被害が懸念され、また、かいぼりによって海へ流される栄養も少なくなります。

このような状況の中、ため池と里海のそれぞれが抱える問題を解決する手段としてのかいぼりについて漁業者・

農業者らが集まり意見交換を行おうと、去る3月7日(水)、「平成23年度 ため池・里海交流保全に関する意見交換会」が淡路市内で行われ、参加した約60名がそれぞれの立場から発言しました。

同会は、県水産技術

センター 反田 實所長の司会で進められ、洲本土地球改良事務所 加藤 浩司課長補佐から「ため池管理の必要性」、淡路景観園芸学校 澤田 佳宏専門員からは「淡路島のため池放棄の現状と課題」について、近畿大学 中西 敬講師からは「漁業の現状」と題し講演が行われ、ため池、里海やかいぼりにおける問題点等が報告されました。

ため池・里海交流保全に関する意見交換会



続く意見交換では、農業者側から「かいぼりを行っても漁業者に怒られないのは嬉しく思う」と発言。これを受けて森 義政組合長(JF森)は「昔はノリの野外採苗(ずぼ)が主流で、かいぼりの泥が網に付くと、ノリの胞子が網に付着しなかったためトラブルになった。今は養殖技術が進み、採苗時でも問題はなくなった。逆に、海が痩せてしまったので“昔のことは忘れて、お互い前を向いて進もう”と呼び掛けて、漁業者によるかいぼりが始まった。これからはお互い協力してかいぼりを行



「前を向いて進もう」と森組合長

いたい」と述べました。他の参加者からは河川や用水路、池周辺を整備する必要があるといった意見の他に、かいぼりの水を流して良い時期の分かる“漁業カレンダー”や、繋がっている各池の水を、効率よく海へ流すための地区ごとの手順書があればいいといった意見も出されました。

県では「ため池の管理については漁業者・農業者だけでなく地域住民の理解が必要」とし、今後、フォーラムを開催するなどため池の重要性をアピールするとしています。

かいぼりの取組み状況を紹介



澤田専門員、中西講師の発表

海を汚さないという観点と 海の栄養を保つという観点とは違う

めざせ“豊かな海”を!!

自民党水産基本政策小委で山田漁連会長が強く要請

「生命を育む豊かな瀬戸内海の再生に向けて、是非、新法の成立をお願いしたい!」と、JF兵庫漁連 山田 隆義会長は、3月15日(木)、自民党水産部会水産基本政策小委員会(鶴保 庸介委員長)でこのように要請しました。この日の委員会は、環境省が海洋由来の廃棄物の海洋投棄問題について説明を行い、山田会長と京都大学 藤原 建紀教授が瀬戸内海の海洋環境状況を報告するというものでした。

山田会長は「現行法が出来て30余年。海の栄養までとってしまったのでは?という疑問がある。」とした上で、「瀬戸内海は国の宝だ。漁業者だけでなく沿岸域に暮らす何百万という人達や様々な産業に恵みを与えている。生命を育む“豊かな海”の再生を願い、瀬戸内海関係10漁連・漁協は一致して新法の成立を目指している。海を再生し、良好な漁場環境と水産資源を回復させることが持続可能な水産産業振興につながる。行政とも力を合わせ、是非、法整備に取り組んでほしい」と訴えました。

藤原教授は「貧栄養化する日本の沿岸水域一海の豊かさはどこから来るのか」と題した報告で、陸からの栄

養塩類が減少している現状を挙げつつ、「瀬戸内海などの閉鎖性水域で、どのように栄養塩管理を行うのか。また、少ない栄養塩をどのように使って“豊かな海”を実現するのか。」と課題を指摘し、「瀬戸内海の窒素・リン濃度管理にあたっては、現濃度レベルが既に外海並の低水準にあるという共通認識をもったうえで論議する必要がある」と締めくくられました。出席議員からは「我々も議員立法で、政策的に、瀬戸内海等閉鎖性水域及び沿岸域が豊かな海になるように支援していきたい」と、国政の場での検討に意欲的な発言が出されました。



意見発表を行う山田会長
(写真提供：JF全漁連)



“豊かな海”の実現を強く要望(写真提供：JF全漁連)



「淡路の魚をもっと知ってほしい!」 ～淡路地区漁青連の料理教室～

淡路地区漁青連事務局

『子供たちに淡路の魚の良さを知ってもらおう』と、淡路地区漁青連では2月21日(火)に、南あわじ市立広田小学校の5年生54名と保護者9名を対象に料理教室を開催しました。

開会の挨拶で校長先生が「肉料理と魚料理のどちらが好きですか?」と質問すると魚料理に手を挙げる児童

は少数でした。ところが、青壮年部員が魚を捌き調理する実演を見せると、児童らからは生の魚を包丁で切る光景にどよめきが起こり、興味津々。生徒たちが魚を捌く番では、初めは慣れない包丁を難しそうに扱っていましたが、次第に慣れてくると、料理を作るのが楽しくなったようで、盛り付けも自分でうまく工夫して完成させて

いました。

最後に、自分で作った料理で昼食です。献立はタチウオのカルパッチョ、ムニエル風南蛮漬け、骨せんべい。児童らは「とてもおいしかったので、魚が好きになりました。」「また教えて欲しい。」「家でお母さんと魚を料理してみたい。」など楽しそうに感想を言ってくれて、大好評の料理教室でした。



タチウオの口にちょっとビックリ!



美味しく出来ました!

SEAT-CLUB(シートクラブ)の新しい相棒 ～兵庫の魚のPRに期待～



JF兵庫漁連

兵庫の漁業や魚のPR等を行うJF兵庫漁連「SEAT-CLUB」に、新しい自動車が届きました。SEAT-CLUBは、小中学校を中心とした料理教室を県下各地で開催しており、その際に使用する新しい車はPRも兼ねたデザインが良いのではと企画されました。

3月26日(月)に届けられた車体には、SEAT-CLUBでおなじみの「タコちゃん」のステッカーが貼ってあり、セ

ンス良く仕上がりました! デザインを考案したSEAT-CLUBのメンバーからも「白い車に良く映える」と、車の仕上がりに満足した様子。この“SEAT-CLUBカー”は、これから兵庫の魚をPRするため、元気よく走り回ります。



「イカナゴ」をもっと食べて！ ～JF坊勢主催のイベントが姫路で開催～



春の瀬戸内海の風物詩「イカナゴ漁」。今年の成育は順調で、くぎ煮に適したサイズが水揚げされています。JF坊勢は、3月10日(土)に「いかなご祭り IN 大手前2012」を姫路城前の公園で開催しました。このイベントは、東日本大震災発生の翌日であったためチャリティイベントとして催された昨年に続いて2回目となります。JF坊勢をはじめ西播地区JFの水産物即売や、JF坊勢女性部などが設けたイカナゴのかき揚げ等の試食コーナーの他に、新たにJF但馬、JF浜坂町も参加。やや肌寒い天気ではあったものの、会場は“海の幸”を買い求める約1万人の家族連れらで賑わいました。

当日の生イカナゴは1キロ500円と格安で販売されたため、買い求める人の行列は見る見る長くなり、当初準備していたイカナゴは約1時間で完売。急ぎよ追加したイカナゴも飛ぶように売れていました。

約7,000食を用意した試食コーナーでも約1時間半後には終了しました。

JF坊勢は、もともとイカナゴ生売り普及のためのイベントを行っていましたが、他JFと連携し地産地消の推進と水産物に親んでもらうことを目的に開催しています。近年のイカナゴ魚価高騰や、くぎ煮を炊く人の高齢化などによる消費停滞といった問題点も浮かび上がってきているようですが、各JF・系統団体で取組んできたくぎ煮の普及運動は、兵庫をはじめ関西一円に確実に定着を見せています。これからもイカナゴの食文化を守り育てていくため、関係JFや系統団体と一緒に取り組んでいきます。



JF但馬の“若松葉かに”もありました。



イカナゴが飛ぶように売れていきます。



日本海で旬を迎えるホタルイカも販売



生イカナゴ販売コーナーに長蛇の列が…



“豊かな海”環境省に認識広がる?!

環境審に「瀬戸内海の水環境の今後の在り方」諮問

水産技術者軸に

“豊かな森川海を育てる会”発足

(財)兵庫県水産振興基金

かねてよりJF兵庫漁連が進めている瀬戸内海再生法(仮称)制定運動は、政治情勢の変化で停滞していますが、“きれいな海から豊かな海へ”の概念は環境省内でも認識されつつあります。これは、これまで“陸”からの視点で水質改善策が講じられてきましたが、今回、生物的視点を課題に水環境を考えていこうという新たな動きが出てきました。国は、昨年7月に「瀬戸内海における今後の目指すべき将来像と、環境保全・再生の在り方について」を中央環境審議会に諮問し、今年2月には瀬戸内海3ブロックでヒヤリングが行われました(拓水NO.665で既報)。国が「豊かな海へ向けた物質循環、生態系管理への転換を図る」など、“豊かな海”といった表現や生物的視点を新たな課題と位置づけられたことは大きな前進です。この先、私達は中央環境審議会委員、特に水産系環境学の先生方には、経験に裏打ちされた現場の声を理解し国へ届けてもらうよう働きかけるとともに、瀬戸内海を豊かな海へと再生していく運動を持続していく必要があります。

一方、県内各地では、豊かな森川海の再生と保全

を目的に、NPOなど地域団体が様々な活動を展開しています。昨年9月にはブナを植える会など、神戸市の住吉川流域で活動する4団体を母体に「豊かな森川海を育てる会(島本信夫会長・40会員)」が設立されました。元県職員の島本氏は、水産行政や研究職に長年携わられたことから、県内漁業事情に精通し、“豊かな海”再生への願いは我々と同じです。森・川・海を一体的に考え、漁業について県民の理解を得ることや、豊かな海の姿を実証するための海浜の整備などを通じて県民世論を盛り上げようとする思いは熱いものがあります。同会は、私達の子供や孫の世代に豊かで美しい国土を継承してゆくために、広く漁業者の参加を求めており、紹介しました。



豊かな森川海を育てる会

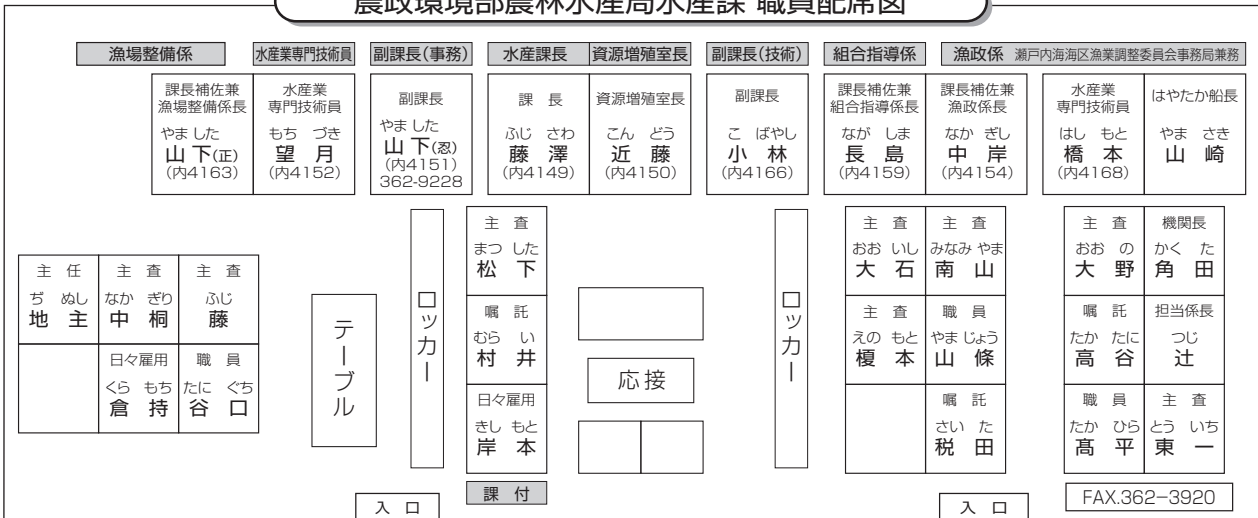
TEL・FAX:
078-782-3164

E-mail:
shimamoto@mtf.biglobe.ne.jp

兵庫県農政環境部 農林水産局 水産課 & 漁港課 配席図

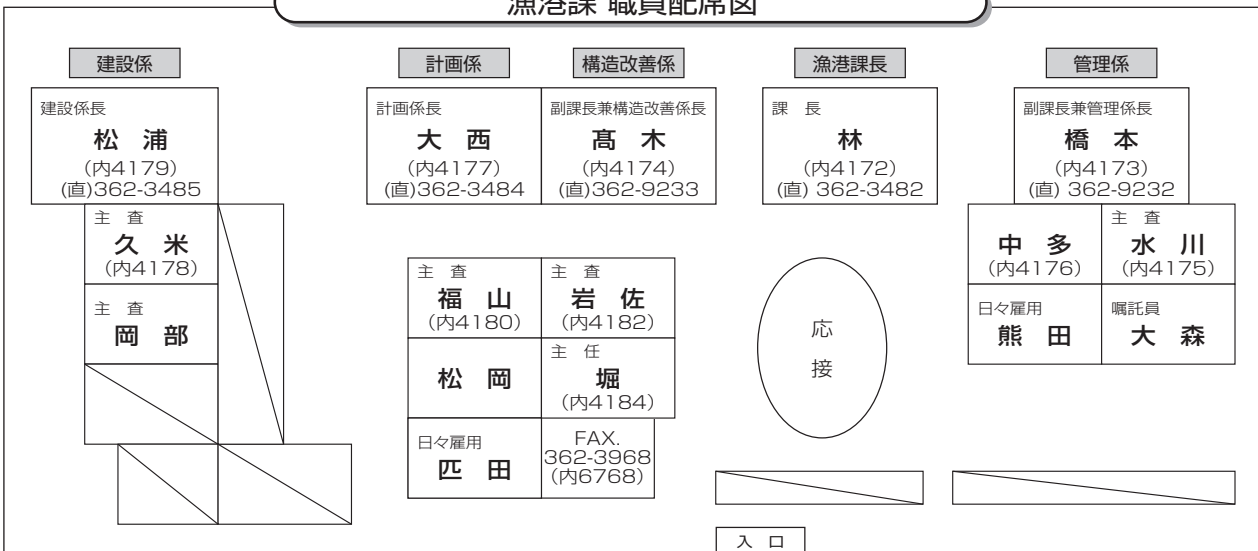
平成24年4月1日現在

農政環境部農林水産局水産課 職員配席図



- | | | |
|---|---|---|
| <p>漁場整備係</p> <ul style="list-style-type: none"> ①漁場整備開発事業に関する事 ②保護水面の管理に関する事 ③漁場の保全事業に関する事 ④漁場環境の保全に関する事 ⑤海洋開発事業と漁業の調整に関する事 ⑥水産業の国際交流に関する事 ⑦水産物の安全確保に関する事 | <p>水産業専門技術員</p> <ul style="list-style-type: none"> ①沿岸漁業等に関する調査研究及び普及指導員の資質向上に関する事 ②水産業改良普及に関する事 ③水産物の加工流通に関する事 ④栽培漁業の推進に関する事 ⑤養殖業の振興に関する事 ⑥水産新分野の開発に関する事 ⑦(公財)ひょうご豊かな海づくり協会に関する事 ⑧水産関係統計に関する事 | <p>課付</p> <ul style="list-style-type: none"> ①課務の総合調整及び庶務に関する事 ②総務課との連絡に関する事 ③文書及び公印の管守に関する事 ④但馬水産事務所との連絡調整に関する事 ⑤課内各係に属さないこと |
| <p>組合指導係</p> <ul style="list-style-type: none"> ①水産業協同組合の指導、監督に関する事 ②漁業協同組合の経営基盤強化に関する事 ③漁業協同組合の合併推進に関する事 ④水産制度金融、漁業共済、漁業信用保証に関する事 ⑤産地卸売市場に関する事 ⑥(財)兵庫県水産振興基金に関する事 | <p>漁政係</p> <ul style="list-style-type: none"> ①水産行政の企画立案及び調整に関する事 ②漁場計画立案及び漁業の免許登録に関する事 ③漁業の許可及び漁業調整に関する事 ④水産資源管理対策に関する事 ⑤内水面漁業の振興に関する事 ⑥海区漁業調整委員会及び内水面漁場管理委員会に関する事 ⑦漁船の建造等の許可、登録、及び積量の測度に関する事 ⑧漁業取締りに関する事 ⑨漁船損害等補償法、遊漁船業、観光漁業、漁業無線局に関する事 ⑩災害による被害等情報に関する事 | |

漁港課 職員配席図



- | | | | |
|--|--|---|---|
| <p>建設係</p> <ul style="list-style-type: none"> ①県管理の漁港及び漁港海岸事業の実施に関する事 ②市町管理の漁港及び漁港海岸事業の指導監督に関する事 ③漁港の災害復旧に関する事 | <p>計画係</p> <ul style="list-style-type: none"> ①漁港及び漁港海岸の整備計画及び調査に関する事 ②漁港施設用地の計画及び調査に関する事 ③海岸統計に関する事 | <p>構造改善係</p> <ul style="list-style-type: none"> ①漁業構造改善事業に関する事 ②水産物の流通加工対策に関する事 ③共同利用施設の管理運営に関する事 ④共同利用施設の災害復旧に関する事 ⑤漁港漁村における地域活性化施策推進に関する事 ⑥漁港港勢調査に関する事 | <p>管理係</p> <ul style="list-style-type: none"> ①漁港、漁港海岸利用の占使用事務に関する事 ②漁港及び海岸保全区域における国有財産に関する事 ③県営漁港財産の取得、管理及び処分に関する事 ④漁港及び漁港海岸の指定及び管理に関する事 ⑤漁港及び漁港海岸の事業事務に関する事 ⑥プレジャーボート対策の総合調整に関する事 ⑦文書及び公印の管守に関する事 ⑧課内各係に属さないこと |
|--|--|---|---|

「日本のへそゴマ」を使った加工品第3弾 「ごまふりかけ」が新登場

JAみのりは西脇市、多可町の特産である金ゴマ「日本のへそゴマ」を原料に使った新商品「ごまふりかけ」の販売を3月1日にスタートしました。出荷先である大阪市のゴマ商社（株）和田萬商店に依頼して商品化した加工品第3弾で、添加物や化学調味料を使わず、原料はいずれも国産品です。金ゴマを100%使用し、紀州和歌山産の梅肉をベースに、鳴門海峡育ちのわかめ、大分県の特産「豊後いりこ」を加え、素材そのものの味わいが楽しめるふりかけに仕上げました。



西脇市・多可町産の「日本のへそゴマ」がたっぷり入った新商品の「ごまふりかけ」

日本のへそゴマは、同JA、同市、加西農業改良普及センターが立ち上げたプロジェクトで、2008年に栽培が始まった特産品です。11年には「日本のへそゴマ」の名で商標登録を取得し、4年目となる今年は87人が約8.2haで栽培に取り組み、約3.5tを

出荷しました。

同JAの西脇営農経済センター 笹倉 延泰主任は「産地を拡大し、出荷量が増えてきたら、地元で商品開発ができるような体制を整えていきたい」と目標を掲げており、この「ごまふりかけ」は同JAふれすこ西脇店、社店、道の駅北はりまエコミュージアムなどで1袋25g入り340円で販売しています。

※問い合わせは・・・

同JA西脇営農経済センター
(TEL) 0795-22-5955 まで

<http://ja-grp-hyogo.ja-hyoinf.jp/>

風見鶏の館で「ミニシネマ」を開催

2月14日（火）、神戸市民生活協同組合が受託運営している、神戸北野異人館「風見鶏の館」において、「ミニシネマ」を開催しました。この「ミニシネマ」は、風見鶏の館で欧米の名画を上映することで、普段、異人館になじみのない方々にも、もっと風見鶏の館に親しみを感じていただくこと、6年前に始められたものです。

今回はオードリー・ヘプバーンとケーリー・グラント出演のサスペンス恋愛映画「シャレード」を上映しました。当日はあいにくの雨天ではありませんでしたが、多くの方にお越しいただきました。

参加された方々からは、「おもしろかったです。なつかしい映画でした」、「ここでのシネマは初めてでしたが良い映画を見ることができて良かったです」などのご意見が寄せられました。また風見鶏の館については、「神戸・北野のシンボルなので、いつまでもきれいに美しい姿を保ってほしい」、「とても良い雰囲気楽しく鑑賞できました」などのお声をいただきました。

神戸は日本における映画発祥の地であり、映画との関りが深い街です。これからも、このようなイベントを通じて、異人館の知られざる魅力を多くの方々に発信できればと思います。



異人館で名画を楽しむ参加者

<http://www.coop-hyogo-union.or.jp/>



旬に想う

写真と文
遊方子

鉄腕アトム

◆2003年4月7日、此の日「鉄腕アトム」が生まれた。漫画上で設定された誕生日である。月刊誌『少年』に連載され、昭和26年4月号より登場して少年らのアイドルになった。筆者も慣れ親しんだ一人で、別冊付録の「鉄腕アトム」も楽しみだったが、江戸川乱歩の「少年探偵団」も連載されており、毎月の発行が待ち遠しかったのを思い出している。JR新長田駅頭に建つ『鉄人28号』も当時の連載漫画のヒーローだ。鉄腕アトムと共にテレビ漫画で人気絶頂だった。月刊『少年』は1968年に休刊、週刊漫画誌が全盛期を迎える。

◆手塚治虫は、連載した漫画を単行本化する際、丁寧すぎる程に手を入れる。作品の載った雑誌と大きさが違うため、絵やセリフが小さくなると見にくいので、吹きだしの字数を減らし簡単なものに変更したり、判型に合わせて切り貼りや加筆を行う。「鉄腕アトム」は複数社から出版されA5判・B5判・新書判があり、出版社によって微妙に絵柄が違っている。その変化ぶりを検証するのもマニアには楽しみで、切り貼りにより大コマから小コマになると、削除される部分が多くなる。切り捨てられボツとなったコマが愛しくなったりする。

◆漫画を低俗な読み物として非難された時期があった。「漫画ばかり読んでおらず少しは勉強しなさい」と成績の悪さを漫画のせいに転嫁したり、悪書追放ムードが全国を駆け巡った。岡山県ではPTAがエロ雑誌と一緒に漫画本を校庭で焼き捨てた。言論の弾圧ともいえる行為だったが、今ではそうした非難も払拭され、書店にはコミックと名を変えた漫画が多くの棚を占拠している。電車やバスの中で漫画を読む姿も多く見られ、膨大なコレクションを誇る博物館も出来ている。そして漫画や劇画で育った世代が活躍する時代になった。

◆宝塚の手塚治虫記念館には、初期から絶筆までの作品が集められている。何時でも全作品に会えるし、天才の残した名品をじっくりと味わえる。手塚治虫が学生漫画家として描いていた頃、戦後漫画のトップランナーと言われた横井福次郎と会っている。自作を見て貰い『これは子供騙しだヨ』と辛辣な批評を受けた。自伝的漫画『どついたれ』の中に平伏・低頭するサマを自ら描いている。筆者は此の超天才漫画家を未知で、横井福次郎の評伝を探して読んだ。その活躍ぶりに瞠目、惜しむかな昭和23年に36歳で急逝されていた。学生漫画を大発奮させ、未来指向の素晴らしい漫画開発に至らした偉大な先人に拍手を贈りたい。鉄腕アトム誕生の裏話に感激して…。往年の我がヒーローに万歳。



桜とヒヨドリ

大輪田塾だより

水産物の集荷販売について

大輪田塾3月講座は、13日(火)に「水産物の集荷販売について ～のり共販に学ぶ～」と題し、加古郡播磨町にあるJF兵庫漁連のり流通センターにおいて行われました。

講義は2部形式で、最初に同センターの合同検査場と倉庫を見学。県内各地から集荷された乾ノリの検査作業や、入庫から出庫までの倉庫保管システム、火入れ設備などを見学しました。続いて、JF兵庫漁連のり海藻事業本部の高瀬 博文本部長よりノリの歴史やのり共販の現状に加え、集荷販売におけるメリット・デメリットや今後のノリ流通のあり方等について講義を受けました。

検査現場や倉庫を初めて見る塾生が多く、検査のスピード感やノリ箱の多さに驚いた様子でした。講義ではノリ繁忙期にかかわらず高瀬本部長から、広範囲に詳しく講義をして頂き、塾生はノリ養殖から集荷販売に至るまで様々な知見を広めることが出来たようでした。

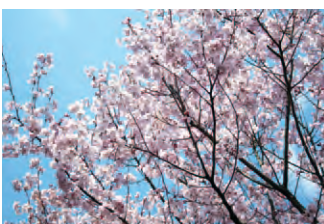


乾のり検査風景



高瀬本部長の講義

表紙の言葉



明石公園の桜

「さまざまな 事おもひ出す 桜哉」～芭蕉～

4月に入っても肌寒い日が続いていましたが、ようやく今年の“桜”が咲きました。桜が咲くと、なんだか華やいだ、嬉しいような気持ちに加え、入学・入社などの新生活の始まりに対する記憶がよみがえり、この時期ならではの季節感に浸れます。寒くて長い冬が終わりを告げて、桜は、春の日差しを一身に浴びて満開となります…。さあ、新しいことがまた始まります！